

＊ ＊ 顕彰記録 ＊ ＊

《第56回町民スポーツ大会》

- ソフトテニス 中学2年生男子の部  
優勝  
第2位  
第3位
- ソフトテニス 中学1年生男子の部  
第2位  
第3位
- ソフトテニス 中学2年生女子の部  
第3位  
第3位
- ソフトテニス 中学1年生女子の部  
第2位  
第3位
- 弓道 中学男子の部  
第4位
- 弓道 中学女子の部  
優勝  
第4位・技能優秀賞

《第13回岡崎幸田中学校  
ソフトテニス選手権2年生大会》

- 男子ソフトテニス部  
優勝
- 女子ソフトテニス部  
第2位

《第4回愛知県中学生新人陸上競技大会》

- 女子100mH 第3位

《第41回全国中学人権作文コンテスト  
岡崎地区大会》

奨励賞

《第33回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞》

佳作

《文詩集みかわの子》

入選

《幸田町小中学生読書ゆうびんコンテスト》

- 優秀賞
- 入選 32名

《人権作品コンクール 標語の部》

入選

《第72回社会を明るくする運動  
作文コンテスト》

佳作



3年ぶりに調理実習が再開されました



3年ぶりの全校合唱「輝くために」



幸田区の区長さんにライジング募金を渡しました

幸田商店街火災義援金

1学期末までの義援金	77,846円
2学期のチャリティータオル	13,500円
合計	91,346円

令和4年12月22日(木)にライジングリーダー3名で、  
たくさんの善意を被災者の代表の方へ届けました。



月報 幸中タイムズ

令和5年1月30日(月)

第178号

幸田町立幸田中学校・発行

ひたむきに歩む幸中生

今年度卒業する生徒たちは、新型コロナウイルスが世界に広がり始めたところで小学校を卒業し、中学校へ入学しました。そのため、入学式後、すぐに休校になり、分散登校が始まりました。新しく出会った仲間と学級で一緒に過ごす時間もなく、マスクのない友達の素顔を見ることができませんでした。調理実習、合唱など、感染拡大のおそれがある学習活動は全て停止されました。しかし、生徒たちは負けませんでした。わずかな機会でも仲間と交流し、ひたむきに中学校生活を創り上げていきました。

新型コロナウイルスへの感染対策が明確になってきた令和4年度になって学習活動、学校行事が再開され、学校に生徒たちの声が戻ってきました。「三密を防ぐ」というルールがある中でも、生徒たちはコミュニケーションを取ってつながり合い、マスク越しではあるものの会話と笑顔が増えていきました。

これまでの三年間を振り返ってみると、幸中生たちは、いつも前向きであったと言えます。「できないことよりもできることを考えよう」という空気が学校にはありました。それは、教師だけでなく、生徒たちも、PTAを中心とした保護者の皆さまも同じ思いだったと思います。その前向きさが姿になったのは、やはり生徒たちが主役となって活躍する団活動だったと思います。活動制限のある中、時間の制約もある中、ひたむきに生徒たちが一生懸命に取り組んだ縦割り演舞や

応援は素晴らしく、感動できるものでした。そして、それを見守る保護者の方々の温かい眼差し。幸田中学校は、地域と共に生徒たちを育てる素敵な文化があるのだと改めて強く思いました。3年生はあと一ヶ月ほどで義務教育を終えます。卒業した後は、新しいそれぞれの道へと歩み出していきますが、生徒たちは自分の足でしっかりと歩みを進めていくと信じています。校歌を全力で歌えなかった三年間ではありますが、校歌にある「ひたむきに」という言葉は、まさに生徒たちのこれまでの姿を表しています。きっとこれからも生徒たちは、ひたむきに自分を磨いて、自分だけの輝きを放っていくことでしょう。



熱意、創意あふれた縦割り団活動



## 令和4年度学校評価(教育活動診)



11月中旬に実施した「教育活動診断票(アンケート調査)」へのご協力、ありがとうございました。今年度も生徒と保護者の両者に協力していただきました。1月23日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析※を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

※ 分析については、教育活動診断アンケートの4段階の評価のうち、主としてA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の評価を合わせた数値を基に行いました。

### 全般的な傾向・特徴

### コロナ禍は続くが数値に変化が

○ 一昨年度からの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等の影響で、生徒についてはほとんどの項目に関して昨年度は大幅な下降傾向がありました。授業をするのに常にマスク着用を強いられ、地域の感染レベルに応じて目まぐるしく変わっていく指示事項への対応で生徒たちや先生たちがストレスを抱えていたと思われる。本年度は、それらの反動もあり、全体的には、数値が回復しました。かつてあったような休校や緊急事態宣言、まん延防止等重点措置など強い行動制限はなくなったものの、感染者は増減を繰り返す中、感染予防の徹底をしながら、かつての行事を3年ぶりに復活することが多くなりました。その結果、昨年度下降した数値が、以前の水準に戻ったと思います。

本年度、生徒について数値が上昇した項目は、「学級の係活動に積極的に取り組んでいる」「全校ダンスや合唱に積極的に取り組んでいる」「授業に真剣に取り組んでいる」「情報機器は、家庭のルールを守り、モラルをもって使用している」等があげられます。特に「授業に真剣に取り組んでいる」については、2年連続で増加しました。コロナ禍とは言え、タブレット端末を利用したICT教育の充実、学級を解体して異学年で再編成した全校道徳をはじめとする新しい教科道徳への取組などが評価されたと思います。どんな状況下においても勉学に努めようとする姿は今後も大切にしてほしいと思います。

○ 保護者についても、生徒と同様に一昨年度の数値に回復しました。その中でも特に上昇したものは、以下の3つの項目です。「教育目標や学校の様子等を分かりやすく知らせている」(11ポイント)「学校行事・授業参観等を通して学校の様子がよくわかるようにしている」(15ポイント)「PTA活動が活発で充実している」(4ポイント)ほとんどの行事が復活して参観も可能になってきたことで評価が上がったと考えられます。しかし、評価の下がった項目もありました。「お子さんは、部活動に積極的に参加している」の項目が約5ポイント、「お子さんは、家庭で情報機器を、家庭のルールを守り、モラルを守って使用している」の項目が約3ポイント低下しました。ここで注目すべきは、情報モラルに



3年修学旅行は今まで通り



感染者が増加中、なんとか実施した体育大会



制限下での幸中祭の一コマ

関する項目です。生徒目線で89から92へと上昇したにもかかわらず、保護者目線では、71から68へと下降したことです。

同じ項目でこれだけの差があるものは、この項目だけです。子どもはモラルを守っているつもりでも、親からはそう見えないうことでしょうか。いずれにしても情報モラル教育は必要だと考えられます。11月29日に行った生徒対象の情報モラル講習会が生徒たちのモラル向上の意識を高めることにつながることを期待しています。

### 新しい傾向・動き

本年度も、コロナ禍により大きな制限を受けましたが、3年生の修学旅行は、3年前の千葉・東京泊の形で実施されました。また、授業参観、体育大会、合唱コンクール、2022ライジングサンプロジェクトの行事も3年ぶりに全学年の保護者を対象に参観可能となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生徒1名につき保護者1名であること、マスク着用、手指消毒等の制限があるものの、



これまで通りの修学旅行に大満足の3年生



3年修学旅行1日目 全員で地引網体験

かつての日常を少しずつ取り戻してきていることを感じることができました。本年度もエグザイルÜSAさんを特別ゲストとして招いて、「生き方講演会」を行い、東日本大震災への思い、ダンスに対するÜSAさんの思いを直に話していただき、生徒たちはその道のプロが語る本物の思いにふれることができました。その後、青空の下、ライジングサンコラボレーション2022を行うことができました。

全般的な傾向・特徴でもふれた通り、タブレット端末、スマートフォンの取り扱いについては、生徒・保護者・学

校で意識のずれがあります。その使用に関する整備が急務となっています。モラル教育の充実はもとより、便利な道具が他を傷つける凶器とならないように学校・家庭で力を合わせて全力で対応する必要があります。また、幸田町から貸与されたタブレット端末の活用をご家庭の場所まで拡張し、リモート学習やアンケート入力、自宅学習等に活用できるまで整備が進むのを待つばかりです。今後も感染症予防をおろそかにすることなく、生徒たちの成長のためにより良い企画、以前のような学校生活を送ることができる学校にしていきたいと思ひます。



昨年度に引き続きライジングサンコラボレーション